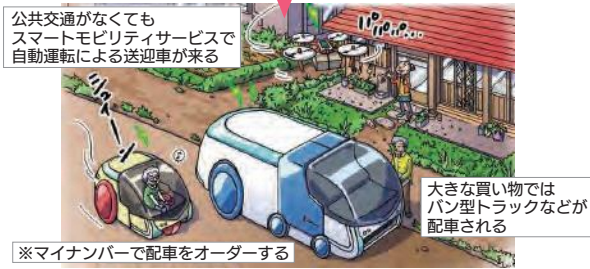


Society5.0実現のイメージ

Society5.0が実現すると、どのようなことができる社会になるのでしょうか？
医療やくらしなどの事例をご紹介します。

オンラインショッピングで購入した商品が
ドローンで自宅へ配送

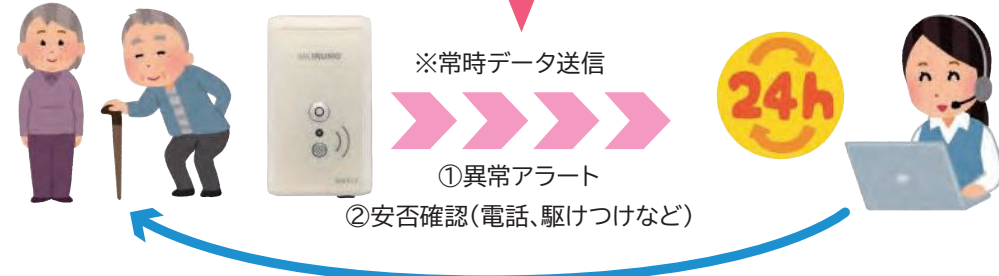


※マイナンバーで配車をオーダーする
※総務省「GO!5G」の資料より引用

自動運転や空飛ぶ車などの開発により、
快適かつ効率的な移動が可能に



異常を感知すると自動的に通知する機器で、
高齢者世帯などの安否確認が可能に

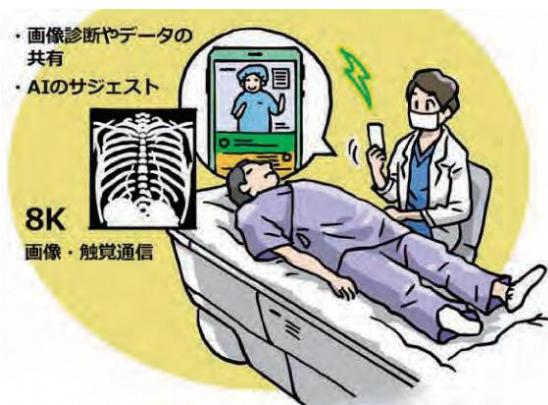


スマートフォンの配車管理アプリなどで
人の移動や生活を支援



オンデマンド交通でお出かけ
乗り合わせの友人・知人も増えてお出かけ回数も増加

AIによる画像解析でポリープや
早期のがんの発見が可能に



※総務省「GO!5G」の資料より引用

特集 special issue

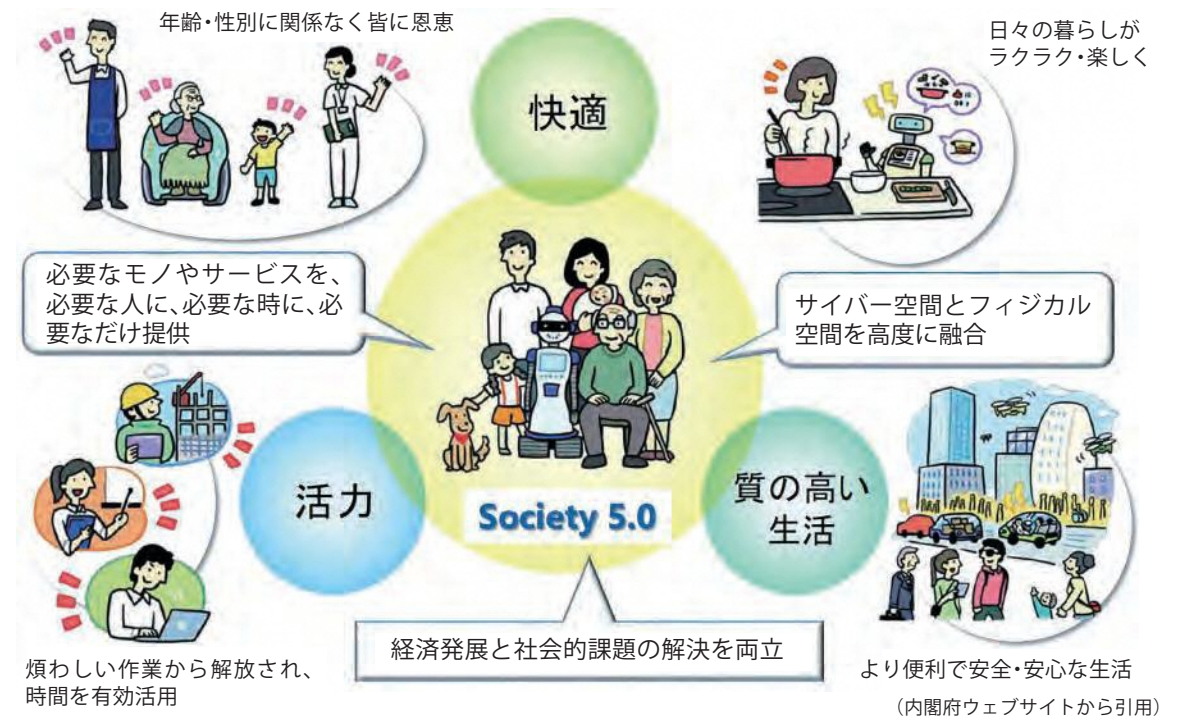
県民が安全・安心に暮らし、 豊かさを実感できる社会に ～デジタル社会「Society5.0」の実現に向けて～

本県では、人口減少や少子高齢化に伴う人手不足などが大きな問題となっています。一方で、^{アイシーティー アイオーティー}ICT、IoT、^{エーアイ ファイブジー}AI、5G、ドローン、ビッグデータ、オープンデータといった情報技術が急速に進展しており、これらを活用して地域課題の解決と産業振興を両立する「Society5.0」に大きな期待が寄せられています。

県民の皆さんが安全・安心に暮らし、豊かさを実感できる社会の実現に向けた県の取り組みを紹介します。

用語の解説	Society5.0……さまざまな知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことで実現する人間中心の社会
	ICT……通信を使ってデジタル化された情報をやりとりする技術
	IoT……あらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすること
	AI……コンピューターを使って、人工的に人間の知能を実現した「人工知能」
	5G……携帯電話などに採用される通信規格で、従来の4Gよりも超高速、超低遅延、多数同時接続が可能となる
	ビッグデータ……スマートフォンなどを通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビの視聴に関する情報などから得られる膨大なデータ
	オープンデータ……インターネットなどを通じて誰でも自由に入手し、利用・再配布できるデータ

Society5.0による人間中心の社会



煩わしい作業から解放され、
時間を有効活用

より便利で安全・安心な生活
(内閣府ウェブサイトから引用)

Topics ながさきICTフェア2021

去る12月25日、26日に出島メッセ長崎で「ながさきICTフェア2021」を開催しました。

各産業分野におけるICT利活用の促進、県内の企業などが持つ技術の社会的な共有、県民のICT利活用にかかる意識醸成を図ることが目的で、会場では、来場者が製品に触れたり、サービスを体験できるイベントが人気を集めていました。



無人自動配送ロボット



ドローン(無人航空機)

本県におけるデジタル化の課題

デジタル化を進めるにあたっては、本県ならではの地理的問題など、以下のような課題の解決が必要です。

- 離島や半島が多いため光ファイバなどの通信基盤整備が進みにくく、光ファイバ利用可能世帯は91.8%に留まっている(全国98.8%、令和2年3月末時点)。
- 中小企業が多く、高度専門人材を含む産業人材の確保・育成が難しい。
- ウィズコロナ、ポストコロナにおける社会の変化への的確な対応が求められている。
- 県民や県内企業、自治体の職員といったさまざまな人のICT利活用の意識醸成がさらに必要。

3 行政におけるデジタル改革の推進

重点

- 電子行政基盤環境の整備
- 利便性の高い電子行政の実現、行政事務の効率化・高度化 など

▶行政手続きのオンライン化を拡大

行政の申請や登録に必要とされてきた押印の見直しを行った上で、各種手続きに活用できるマイナンバーカードの普及促進など、オンライン手続きができる環境の整備を進めています。

手数料などもオンラインで決済できるようになれば、より多くの行政サービスが時間と場所を選ばずに行うことができますようになります。



4 Society5.0実現のための環境づくり

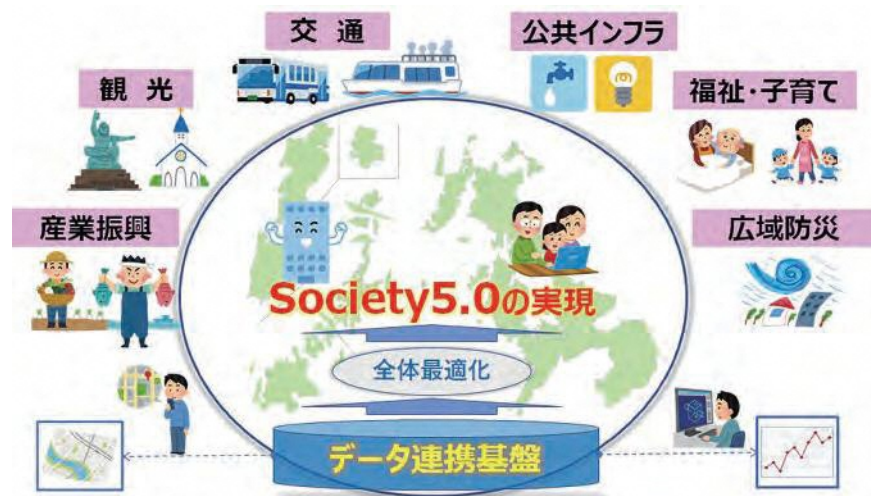
重点

- 情報通信基盤の強靱化、オープンデータの利活用促進
- デジタル人材の育成 など

▶光ファイバの整備促進、データ連携基盤の構築

県と市町が連携し、行政や民間が有する多種多様なデータの集積・共有・活用を可能とするデータ連携基盤を構築し、地域課題解決・産業振興・地域活性化を図っていきます。

また、光ファイバ整備も進められており、本年3月末までには、ほぼ県内全域での整備が完了します。



5 Society5.0実現に向けた体制づくり

重点

- 産学官連携による推進体制の再構築、行政間の連携体制の強化 など

▶ながさきSociety5.0推進プラットフォーム

Society5.0の実現には幅広い分野が対象となるため、IT関連企業のほかにもさまざまな分野の民間企業や金融機関、大学などを構成メンバーとした「ながさきSociety5.0推進プラットフォーム」を中心に、社会のデジタル化に向けた取り組みを推進しています。

デジタル社会「Society5.0」の実現に向けて、県や市町、民間企業、大学などの連携を図り、今回ご紹介した5つの「基本方針」への取り組みを加速化させていきます。

デジタル化による地域課題解決に向けた取り組み

県では地理的問題やウィズコロナ、ポストコロナにおける社会の変化への対応といった課題解決に向けて取り組むべき基本的な方向性として5つの「基本方針」を定めています。また、それぞれの基本方針に沿って「重点分野」を定め、本県におけるSociety5.0の実現を目指しています。

1 ICT利活用による豊かで質の高い県民生活の実現

重点

- 効率的な医療・保健・福祉サービスの提供
- 防災・減災対策の強化
- 教育のICT化推進 など

▶離島の病院へ高度専門医療を提供

スマートグラスという特殊な眼鏡をかけると、遠隔地にいる人と同じ視野を持つことができます。たとえば、離島にいる医師が映した患者を長崎大学病院などの専門医が見て、遠隔サポートを受けることなどが可能となります。



▶小規模高校へより質の高い学びを提供

小規模高校には、専門教科の教員を十分に配置しにくいという問題があります。遠隔授業を取り入れることで、単独では開設が難しい科目を開講することができるほか、生徒間交流にも活用でき、教育内容の充実化を図ることができます。



2 ICT利活用による新産業の創出とDX※の加速化

重点

- 新産業の創出、製造業・サービス産業等の生産性の向上
- 農林水産業の活性化、観光産業の振興
- 働き方改革 など

▶牛の繁殖管理

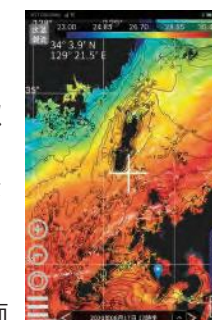
繁殖用の牛に機器を取り付けることで、牛の発情や病気の兆候をセンサーとAIで感知することができ、牛舎にいなくても牛の繁殖管理ができるようになります。



センサーが付けられた牛

▶海の天気予報

漁業者がスマートフォンアプリで海の状況を把握し、効率的な操業に役立てる取り組みが進んでいます。数日先の水温・塩分、潮流が高精度に予測できるようになり、漁場選定や出漁を判断する際に活用されています。



アプリの画面

▶人手不足への対策

複雑で精密な金属加工を行う工場において、最新のロボット設備や制御プログラムなどを取り入れることにより、完全無人化に成功した例もあります。



※DX … 「デジタルトランスフォーメーション」。デジタル技術の活用による新たな商品・サービスの提供、新たなビジネスモデルの開発を通して、社会制度や組織文化なども変革していくような取り組み